



立つ力が弱い人への介助法  
を実践する沖田さん

6月5日、大阪社会福祉指導センター5階ホールで、大阪府介護者(家族)の会連絡会平成27年度総会・講演会が開催されました。連絡会に加盟する26会・約140人と、例年以上の参加を得ました。

第1部では26年度の事業報告・収支決算、続いて役員改選、27年度の事業計画・収支予算が報告・承認され、「誰もが安心して気軽に集うことができる『居場所づくり』を進め、行政や関係機関、地域住民など多様な主体との連携を一層強化していくとの重点方針を確認しました。

## 府介護者(家族)の会連絡会 結成20年を迎える

同連絡会は平成8年2月の設立以来、今年度で20周年を迎えます。近年、介護者(家族)の会の役割が改めて注目されており、昨年度は大阪狭山市、今年度に入って高石市でも新たに介護者(家族)の会が結成されました。地域福祉を進めるうえで、当事者組織の育成・支援が大きな鍵となってきています。

第2部では、NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表の沖田裕子さんから、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」と題した講演がありました。講演では、大阪市北区にある若年性認知症デイスサービス「かみやま倶楽部」で活動されている当事者やスタッフの方々が舞台へ登壇し、クラリネットの演奏や歌声を披露していただきました。アンケートでも「演奏・歌声に感動した」との感想が多く寄せられ、「かみやま倶楽部」の方々と参加者皆で歌い、お互いに交流を深める



ギターに合わせて熱唱される  
かみやま倶楽部の皆さん

ことで一体感が広がり、会場内は盛りあがりをみせました。また、沖田さんより、「家族だからこそよくなってほしいという思いが強すぎて、本人の言葉を訂正してしまうこともあるのでそういった時の対応方法」や、「介護する家族も趣味や休息など楽しみの時間を持つことへのアドバイス」など、実体験をもとに具体例を示しながらユーモアあふれる説明をされたことで、何度も会場内から笑いが起こりました。参加者からは、「家族の気持ちを理解してくださっているのだからやってくれよう」という声も聞かれました。参加者から「介護中でも自分の時間を大切にすることが参考になった」「楽しみながら学べた」との感想が聞かれ、日頃の介護や会活動にも役立つ講演となりました。

豊中市ではコミュニティソーシャルワーカーに発達障がいの子どもをもつ家族からの相談が増えてきたことから、平成20年に行政等と協力して、広汎性発達障害者の家族交流会を開催しました。回を重ねるうちに、「もっと交流したい」「家族で集まって相談し合う場があれば」という参加者の声から、成年の子どもをもつ親の会として、豊中市発達障害者の家族の会(一步の会)を立ちあげ、毎月集まっています。

府内全体でもこのような取り組みを広げたいため、社協活動の柱の一つに、当事者組織支援・育成をしっかりと位置付けていくことが大切です。

連載

Vol.2

### つながりで拓く地域福祉実践 ～当事者組織支援：豊中市社協～

豊中市社協(以下 社協)では毎年度、当事者組織の育成・支援を重点活動の一つに掲げています。今回は豊中市発達障害者の親の会に焦点を当て、当事者組織支援の必要性を考えます。

発達障がいを通してでも理解してもらいために、パネル展示や当事者、家族の手記をまとめた冊子を発行するなど、地域でのPR活動を行いました。すると、参加する家族が徐々に増え、年齢層も幅広くなってきました。そのような中、「同じような年齢の子どもの家族が集まって話し合うことができれば」との声に応え、乳幼児・小学校低学年の親のグループ(にじいろ)が生まれました。発起人の伊山さんは「発達障がい児者の年齢によって、抱えている悩みも違います。例えば就学、就職、病院のことなどさまざまです。同じような年代の子どもの親同士で交流や情報交換ができるにじいろは貴重な場ですね」と語ります。



つながる  
ひろがる

## 地域福祉を支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介します。

今回は5月28日に府内社協新任職員研修で先輩職員としてお話しいただいた二人をご紹介します。



泉佐野市社協  
納田 かおりさん  
入社17年目  
CSW担当

Q 所属地域や社協の特色を教えてください。

A 小地域ネットワーク活動では、小学校区の活動に加え、約80の支部福祉委員会(町会・自治体単位)によるきめ細かな活動が盛んです。また、今年度からCSWが新体制となり、社協が持っているそれぞれの相談窓口や地区福祉委員会との連携をより強化し、個別支援や地域づくりに取り組んでいます。

Q 仕事をしていくうえで大切にしていることは?

A まずはチームワークです。組織内部はもちろん、外部との連携も大事だと思っています。社協が受けとめる地域の課題は、すぐに解決できないものも多いですが、その人にとってのベスト・ベターな道につながるように、みんなで考えることを大事にしています。何年か経って、あの時のことがここにつながった!と解決のきっかけとなることもあるので、あきらめず気長にすぐには無理でもいつか想いは届くという気持ちを大切に関わっています。

それと、寄り添うこと。社協の仕事は当事者やボランティアのストーリーにどれだけ寄り添えるかが重要です。支援者として「もっとこうすべき」と先が見えたとしても、横に並んで同じ景色を見ながら、本人が納得して前に進めるようサポートしています。

Q 仕事以外で大事にしていることは?

A 福祉関係以外の友人と会う時間を大切にしています。福祉以外の分野に関わる友人からは、地域のこと、福祉のことがどう見えているのか?いろいろなスタイルの人がいて、多

様な角度からの見方があって、そんな時間が巡り巡って仕事のヒントにつながることもあります。



箕面市社協  
山本 祐さん  
入社4年目

Q 現在の担当業務は?

A 3つの小学校区の地区担当と、介護者家族の会、認知症家族の会の事務局、共同募金配分金事業として、見守り事業や介護者のリフレッシュ事業などを担当しています。

Q 社協職員としてのモットーは?

A 想いの熱い地域住民に真正面

から関わっていくことです。

Q 社協の魅力は?

A 幅広い年代の方々と関わることです。出会う一人ひとりがそれぞれの価値観を持っており、日々自分の小ささを感じながら、刺激を受けています。

Q 仕事をやるうえで大切にしていることは?

A 決めつけないこと。同僚や先輩のアドバイスをもらうなど、さまざまな角度から物事を考えること。気づきに敏感になれるように意識することです。社協職員としては、相手の言葉の本質をいろんな角度で感じとれることが大事だと思います。

例えば、日々の業務の中で

も、地域での会議のあとには、その地域で気になる人の家の近くを通って様子を確認するなど、職員としてもできる見守り活動をとことん大事にする姿勢もそのひとつです。

Q どんな社協マンを目指していますか?

A 飲みやすくなったコーヒーぐらの温度をもって関われる社協マンです。熱すぎても冷めていてもダメ。地域の方々がスツと手をのばせるくらい、頼りやすい空気感と熱をもった社協マンを目指したいです。10年後、20年後、「社協なんていらないよ」と言われないように、色んな年代の人から求められる社協を目指します。

誰でも気軽に  
楽しくボランティア!

## 夏のボランティア体験プログラムがスタート

府社協と府内41市町村社協のオール大阪による、「ボランティア体験プログラム」がはじまりました。

地区福祉委員会や福祉施設、ボランティアグループ、NPO等の協力により、ボランティア活動を身近に感じられる個性豊かな、楽しいプログラムが用意されており「ボランティアは初めて」という方はもちろん、親子や友だちグループでの参加も大歓迎です。

この夏、体験を通してたくさんの人と出会い、今まで知らなかった世界に触れてみませんか?

たくさんのご参加をお待ちしています!



体験期間 9月30日(水)まで  
申込み先 各市町村社協の窓口

プログラムの検索はこちら▼  
<http://www.osakafusyakyo.or.jp/volunteer/summerv.php>

